

浅井三姉妹ー茶々・初・江ーゆかりの地

あざい

ちやちや

はつ

ごう

浅井長政と織田信長の妹であるお市の方の間に生まれた茶々・初・江、いわゆる浅井三姉妹は、戦国時代に生き、過酷な運命に翻弄された姫たちといわれています。実は、浅井三姉妹は幼少のころを津市で過ごしていたこと、知っていますか。

今からは、三女の江が主役であるNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」が始まることもあり、注目されています。

三姉妹の生涯

江は、1573(天正元)年、北近江の小谷城で浅井長政とお市の方の三女として生まれます。しかしその年、父親である浅井長政は、織田信長に攻められて亡くなり、母親と二人の姉(茶々・初)と共に織田信長に引き取られました。翌年には、信長の弟である織田信包の元に預けられ、信包の居城であった伊勢上野城で6年間、その後安濃津城で2年間を過ごしたといわれています。信包の庇護の下、伊勢国で暮らしていましたが、本能寺の変で織田信長が討たれると、尾張国へ移ったとされています。

その後、茶々は豊臣秀吉の側室(淀殿)となり、秀吉の死後は豊臣家の実権を握りますが、大坂夏の陣で徳川家康に攻められて亡くなります。初は近江国の大溝城主京極高次の正室となり、江は12歳で尾張国大野城主佐治一成(離別)、20歳の時に岐阜城主の豊臣秀勝(死別)、そして23歳で徳川家康の三男秀忠に嫁ぎます。

初は、大坂夏の陣で姉(淀殿)の豊臣家と妹(江)の徳川家との仲裁役として奔走しました。

江の夫である徳川秀忠は徳川幕府の二代将軍となり、ふたりの間に生まれた長男の竹千代(家光)は三代将軍になります。激動の人生を生きた江は、1626(寛永3)年に江戸城で54歳の生涯を終えました。

江の生涯

一五七三(天正元年)	浅井長政とお市の方の三女として生まれる
一五七四(天正二年)	小谷城落城
一五八〇(天正八年)	お市の方と三姉妹(茶々・初・江)が信長に引き取られる
一五八二(天正十年)	岐阜城に入る
	清洲城に入る
	母、姉と共に信包の居城である伊勢上野城に入る
	安濃津城完成に伴い、母や姉と共に安濃津城に移る
	本能寺の変、信長死す
	母、姉と共に清洲城へ移る
	清洲会議
	母、姉と共に北庄城(福井)へ移る
	佐治一成に嫁ぐ
一五八四(天正十二年)	豊臣秀勝に嫁ぐ
一五九二(文禄元年)	徳川秀忠に嫁ぐ
一五九五(文禄四年)	
一六二六(寛永三年)	江戸城で死す